

「八尾まちづくり大学」これからが山場 「まちづくりセミナー」折り返していざ第4回へ

text_Shiozawa



セミナーの様子

八尾まちづくり大学では、第1回セミナーに引き続き、第2回セミナー(10月13日)、第3回セミナー(10月20日)が行われました。

前回の第2回セミナーでは「観光」をテーマとして取り上げ、「なぜ今八尾において観光交流について考えることが必要か?」という根本的な問題提起から始まり、私達が八尾のまちにした具体的な提案(100を超えるアイデアを「提案カード」として提出)についての議論がされました。今回で第3回目となるセミナーは第1回とは異なるワークショップ形式で、参加者がより積極的に議論に参加し、活発な意見交換がされました。「生活」をテーマとして、進む少子高齢化とどう向き合っていくか、現状と問題点を話し合いながら、より住民の方の日々の思いに肉薄した熱い議論となりました。

次回第4回(11月11日)では、今後のまちづくりのリーダーとして活躍していただけるよう、より実践的な体験ができるワークショップを計画中です。

■ 八尾まちづくり展

「マチヅクリノタネ」

10月13日から12月2日まで、八尾旧町の「ふらっと館」でまちづくりの展示を行っています。私たちが見つけた八尾の魅力を伝え、そしてその魅力の種を育てていってほしいという思いから始めました。今までの調査・提案をまとめたものや、旧町全体のガリバーマップに加え、セミナーの様子も順次更新していく予定です。



八尾まちづくり展

第2弾新宿プロジェクト始動 「新宿区景観まちづくりガイドブック」へ

text_Shiozawa

2006年4月24日に幕開けた新宿プロジェクト第1弾の「景観形成方針」の作成は、2007年10月5日、新宿区への提出をもって一段落しました。

当初約1ヶ月の短期集中プロジェクトとのことでしたが、なんと1年半の年月をもって完成。感慨もひとしおです。そして続く第2弾「新宿区景観まちづくりガイドブック」の作成が11月2日スタート。これまでの調査結果や提案をベースに、各地域の景観特性と意義、魅力を一般区民向けにわかりやすく伝えるものとして、書籍としてまとめます。今までの作業とはまた一味違った今後の躍進に乞うご期待。

「新宿区景観まちづくりガイドブック」

2007年度末にかけて各地域(四谷、筆筈、榎、落合第一、落合第二、柏木)ごとに1冊ずつ作成。

これまでの調査結果をベースに以下を提示する。

- 各地域の景観特性と意義、魅力
- 景観に対する提案



ナイトピクニック in 柏の葉 多主体の接点となる『みち』

text_Yahara

北沢先生が指導する柏の葉都市デザインスタジオが始まって約半年一 ついにスタジオでの提案が少しずつ実現してきている。

柏のデザインスタジオD班有志の3名（デザ研矢原、空間研柏原、清家研石田）は、スタジオを終えた現在も千葉大学フィールドセンター内の歩行者専用路を拠点として、柏の葉高校、柏の葉公園住宅住民、千葉大学、桜並木協議会といった『みち』に関わる多主体と共にまちづくり活動を継続中。



9月24日にはピクニックワークショップが開催された。ピクニックという名の通り参加者は徒歩にて街中を散策し、各々の『みち』の特徴を把握した上でどのように改善

されるのが望ましいかを考える。10月のナイトピクニックに向けて、当班ではラグや当日製作したガラスの花の配置を提案。ガラスの花にはLEDライトが内蔵されており、昼間太陽光を蓄熱して夜間には暗いこのみちを仄かに照らすというもの。

10月14日にはガラスの花を設置したみちでナイトピクニックが行われた。夕方からの開催にもかかわらず通りすがりの人も含めて多くの人が訪れ、その幻想的な雰囲気を楽しんでいった。また、高校生の合唱も企画され、”多主体の接点となる場”というスタジオで提案された案が実現されていることにD班一同で感動を味わった。



高校生のアカペラ合唱

今後4月には、これまでのワークショップ参加主体であった柏の葉高校・千葉大学・柏の葉公園住宅住民・東京大学が企画段階から参加することを目指した地域密着型のイベントが企画されている。

詳しくは、ブログ参照↓

<http://happamichi.exblog.jp/>

横浜BankArt UDSY2007

M1 山田 浩

去る10月25日の夜。みなとみらいのイルミネーションが輝く一画に、仕事を終えた社会人が続々と集まる場所があった。横浜を舞台に将来都市と空間について分析と提案を行う夜学、その名も「アーバンデザインスタジオコハマ（略してUDSY）2007」の開講である。



北沢教授の呼びかけのもと、若手のまちづくり専門家、行政職員、関係の深い企業人、まちづくりに強い関心がある市民など、幅広い分野から集まった参加者は予定の倍を超える人数に達し、会場

として用意されたBankART NYKは異様な熱気に包まれた。

我が都市デザイン研究室からも山田・北村・蛸灰谷・竹山・塩澤が、柏の空間計画研究室から佐古が、研究スタッフとして参加しており、まちづくりを実践している方々との議論に毎回多くの刺激を受けている。スクールは12月13日まで、毎週木曜日に計8回行われる。



詳しくは、BankART1929 ↓

<http://www.bankart1929.com/>

京都まちづくりコンペ始動 トランジットモール実験視察

M1 北村修一

M1の9人は、1月に行われる京都まちづくりコンペに参加します。それに先駆けて10月14日にコンペの説明会が行われ、ナッタポン・山田・北村の3名が参加、同時に対象敷地の調査を行いました。

対象敷地は市の中心部で1.5km四方と大きく、調査も外側をぐるっと1周するので精一杯。それでも町家や路地・修景された道路などを見つめる度に皆で議論が始まる熱い調査となりました。

12時からは四条通でトランジットモールの社会実験が行われ、通りにはウッドデッキが出現。ついに日本にトランジットモールが来たかと興奮冷めやらぬ北村、空間を一瞬で変化させる作業員の姿に目を奪われた山田、そんな二人に気を配りつつ記録を行うナッタポン。今後恒久的な整備がなされることに期待です。

さて、説明会ではまちづくり活動を行っている4地区の代表者から、小学校の統廃合・マンションや町家の現状などの説明を受けました。既にどこでもまちづくり活動が行われていて、それを理解しつつ新たな風を吹き込むのが参加者の使命。当日いた参加者60名の殆どは近畿圏の出身、我々は外部の視点から提案を行うこととなります。

今後12月に1次選考、1月末に最終審査が行われます。

